



みんなてつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた

（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想【概要版】

発行 山北町

〒258-0195 神奈川県足柄上郡山北町山北 1301 番地 4

電話：0465-75-1122

<https://www.town.yamakita.kanagawa.jp/>

発行日 令和 2（2020）年 3 月

（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想

【概要版】

山 北 町



（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想とは・・・

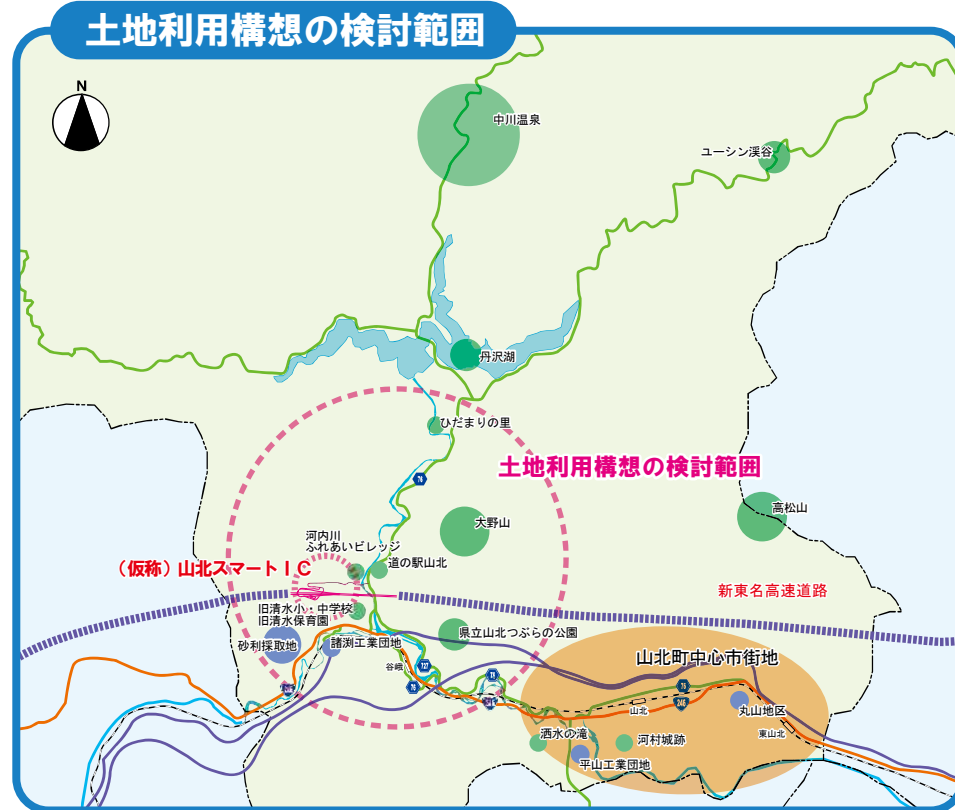
- （仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想は、令和５年度（２０２３ 年度）に供用開始が予定されている「新東名高速道路（仮称）山北スマートＩＣ」の周辺地域において、産業・観光のゲートとしての土地利用展開を図り、観光・交流・人口の増加と新たな産業振興に繋げることを目的とした、町の目指す望ましい土地利用についての基本的な考え方を示すものです。
- スマートＩＣの整備によって、首都圏から山北町へのアクセス性が飛躍的に向上することで、観光交流人口の増加などが期待されています。そのため、スマートＩＣ整備を契機とした、周辺地域の新たな土地利用の方向性が求められています。



（仮称）山北スマートＩＣ完成イメージ

土地利用構想の検討範囲

- 「(仮称) 山北スマート IC 周辺土地利用構想」の検討範囲は、(仮称) 山北スマート IC を中心としたおよそ 2～3km の範囲（直径 5 km 程度）を対象とします。
- 大野山、県立山北つづらの公園、河内川ふれあいビレッジ、ひだまりの里、道の駅山北など、集客力のある観光施設が集積している一方、急峻な地形であるため平坦地が少なく、また、法規制の指定状況などから利用可能な土地が限定されるという特性を有しています。



周辺地域の現状と課題

◆自然条件

- 豊かな自然環境に恵まれた水源地域
- 相模湾、富士山への良好な眺望
- 急峻な地形形状で平坦地が少ない
- 市街地部に比べて 3℃程度低い平均気温

○豊かな自然環境に配慮し、地域の特性を活かした土地利用の展開

◆社会条件

- 人口の減少と高齢化の進展
- 市街地部に人口が集中、山間部は市街地部の 20%程度で人口減少が顕著
- 産業人口、農家戸数も減少傾向
- 東京都心部から 80 km 圏（高速道路利用で約 80 分）に位置する立地特性
- 年間 160 万人前後の観光客が来訪
- 集客性の高い観光資源が集中分布する一方、滞在型施設が減少
- 森林法、農業振興地域、自然公園区域、土砂災害警戒区域等の法規制

○産業の誘致による新たな就業・定住の場の提供
○農業活動の維持保全に向けた対応
○豊かな自然環境に恵まれた観光資源の活用と新たなレクリエーションの場の提供

《仮称》山北スマート IC 整備計画の概要と効果

令和5年度（2023年度）の開通が予定されています！

- (仮称) 山北スマート IC の整備によって、観光振興への寄与、広域的な地域活性化などが期待されています。

計画概要

- 東京方面 ON ランプ 名古屋方面 OFF ランプ
- 計画交通量 約 1,300 台 / 日
- 主要地方道山北藤野線に接続
- 令和5年度（2023 年度）開通予定



期待される効果

- 観光振興への寄与
⇒アクセス性向上による観光入込客の増加
- 救急サービスの向上
⇒救急医療体制の充実
- 災害時の代替ルートの確保
⇒防災対策としての地域拠点形成
- 工業団地等へのアクセス性向上
⇒アクセス性向上による新たな企業誘致の促進
- 広域的な地域活性化への期待
⇒地域活動の連携による更なる地域振興

上位計画・関連諸計画における位置づけ

スマートICの整備にあわせて産業・観光のゲートとしての土地利用展開を図ります！

- 周辺地域は、「山北町第5次総合計画」、「山北町第3次土地利用計画」において、町の新しい産業・観光のゲートとして位置づけられています。

山北町第5次総合計画（後期基本計画）

◆町の将来像

みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた

◆土地利用の考え方

山北町土地利用に関する基本条例に基づき令和6年を目標年次とする第3次土地利用計画を推進し、計画的な土地利用を図る。

◆分分野別構想

- 安全安心して住みよいまちづくり（防災・防犯・生活環境）
⇒土地の有効活用
- 清水地区を中心としたエリアは、新東名高速道路（仮称）山北スマート IC が整備されることで、交通環境が飛躍的に改善されることが期待されており、山北町の新しい産業・観光のゲートとして、道の駅を含めた周辺の土地利用の展開を図ります。

山北町第3次土地利用計画

◆土地利用のコンセプト

自然と地域性を生かし、住み、遊び、働ける活力あるまちづくり

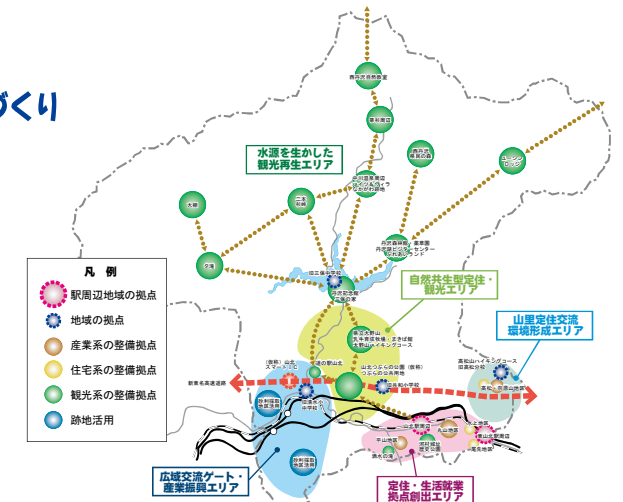
◆エリア別の土地利用方針

●広域交流ゲート・産業振興エリア

⇒(仮称) 山北スマート IC の整備にあわせて産業・観光のゲートとしての土地利用施策を展開していくことで、地域活力の維持を図るための新たな地域づくりを行う。

●自然共生型定住・観光エリア

⇒観光と新たな定住の拠点としての土地活用を進めて、地域の活性化を図る。



土地利用構想の目標

「産業・観光の新たなゲート空間の形成」を土地利用構想の目標として設定します！

●（仮称）山北スマートＩＣ周辺地域に施設を集中配置するのではなく、スマートＩＣ設置により、主要観光施設へのアクセス性が向上するという利点を活かし、山北町の観光拠点である丹沢湖周辺や中心市街地との連携を図るとともに、周辺地域の資源の魅力化と情報発信、誘導強化を積極的に展開することで、山北町全体の活性化につなげていきます。

周辺地区の有する特性

- ◇豊かな自然環境
- ◇急峻な地形形状
- ◇観光施設の集中分布
- ◇首都圏に近接

土地利用構想の基本目標

産業・観光の新たなゲート空間の形成

（仮称）山北スマートＩＣの整備を契機として、スマートＩＣ周辺地域において、産業・観光のゲートとしての土地利用展開を図り、観光・交流・人口の増加と新たな産業振興につなげていきます。

上位計画等の位置づけ

- ◇産業・観光のゲート
- ◇観光と新たな定住拠点
- ◇観光振興への寄与
- ◇広域的な地域活性化

土地利用構想ゾーニング

スマートＩＣ周辺地域を3つのゾーンに区分し、土地利用施策を展開します！

●（仮称）山北スマートＩＣ周辺地域の計画的な土地利用を推進するにあたって、周辺地域を3つのゾーンに区分し、それぞれのゾーンの特性をふまえて土地利用構想の目標と基本方針をうけた具体的な施策を展開していきます。

景観形成ゾーン

来訪者を出迎え、見送る山北町へのゲート空間を形成する。

【土地利用の考え方】

新東名高速道路の建設により、（仮称）山北スマートＩＣや県道山北藤野線を跨ぐ河内川橋は、その存在が地域のモニュメントや新たな人工景観として、地域を特徴づけるものとなるため、眺望スポットの整備とともに、ネクスコ中日本に対し法面の景観整備を提案していくことにより修景を施し、来訪者を出迎え、見送る山北町へのゲート空間として機能させる。

産業振興ゾーン

広域交通利便性を活かし、産業・観光のゲートとしての土地利用施策を展開する。

【土地利用の考え方】

（仮称）山北スマートＩＣ整備によって、広域交通利便性が飛躍的に向上することが期待されることから、企業活動の更なる活性化を図るとともに、中長期的な砂利採取地の跡地利用については、砂利採取事業の進捗状況を見極めた中で検討する。

自然共生型定住・観光ゾーン

多様な観光レクリエーションの場を提供し、水源地域と都市住民との交流を積極的に展開するなど、魅力ある観光の振興をめざす。

【土地利用の考え方】

集客力のある観光施設が集中し、かつ、豊かな自然環境に恵まれた水源地域としての立地特性を活かし、既存の観光施設との連携を図るとともに、新たな観光資源を発掘・創出することで、多様な観光レクリエーションの場を提供し、水源地域と都市住民との交流を積極的に展開するなど、魅力ある観光の振興をめざす。

土地利用構想の基本方針

「つくる、高める、連携する」を土地利用構想の基本方針として設定します！

●（仮称）山北スマートＩＣ土地利用構想の目標「産業・観光の新たなゲート空間の形成」を実現させるため、次の3つの視点を基本方針として設定します。

来訪機会をつくる

スマートＩＣが整備されることで、山北町の観光拠点へのアクセス性が向上することから、新規施設の誘致や積極的なイベント情報の提供など、山北町への来訪機会をつくる施策を展開する。

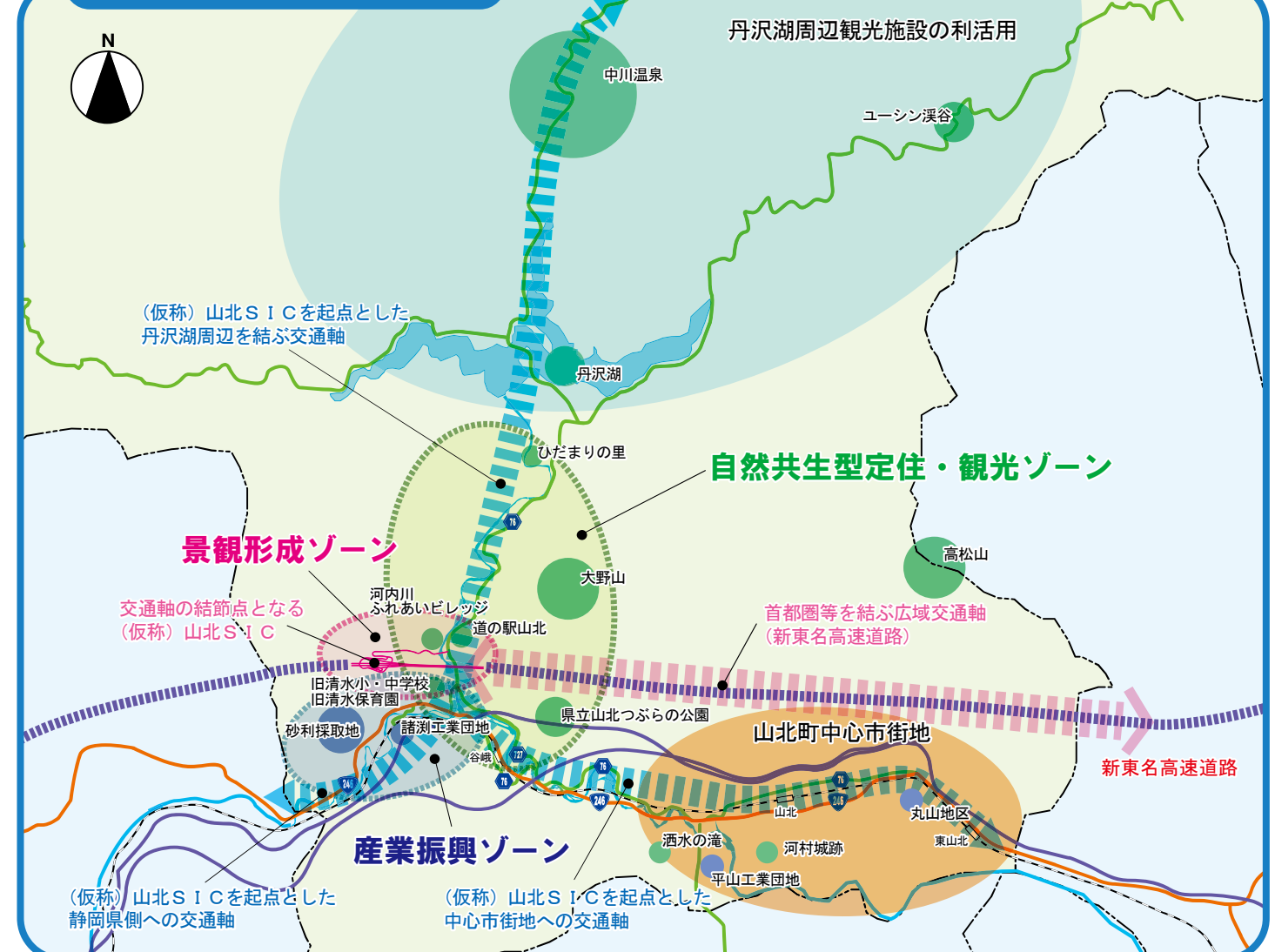
既存施設の魅力を高める

スマートＩＣ周辺地域には、集客力の高い施設が集中分布していることから、既存施設の魅力をさらに高めるとともに、地域に眠っている資源を再生・活用し、魅力ある地域の振興をめざす。

周辺施設と連携する

新たな観光資源の発掘・創出によって、多様な観光レクリエーションの場を提供するとともに、既存の観光施設との連携を図ることで、水源地域と都市住民との交流を推進する。

土地利用構想ゾーニング図

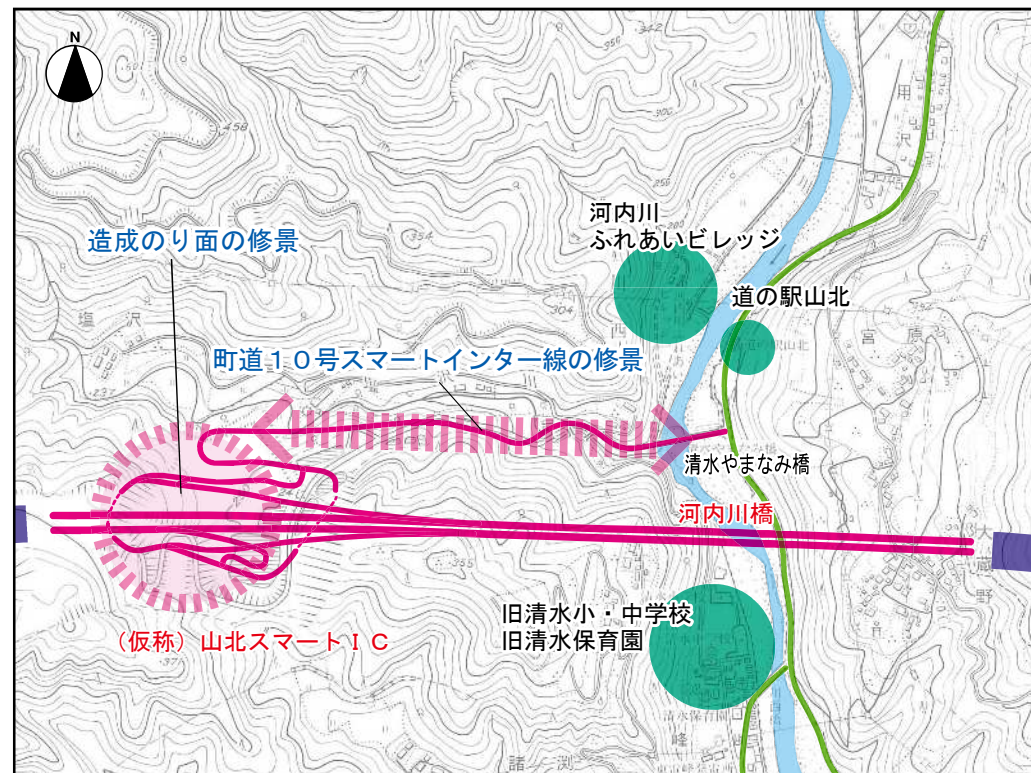


土地利用展開イメージ

土地利用構想の目標、基本方針を具体化する土地利用を展開していきます！

展開イメージ①

(仮称) 山北スマートICのゲート景観の演出



【土地利用の考え方～町道10号スマートインター線、造成のり面の修景】

<現況>

(仮称) 山北スマートICと主要地方道山北藤野線を結ぶ町道10号スマートインター線が現在整備されている。河内川を渡る清水やまなみ橋が来訪者の山北町への最初のゲートとなる。

<土地利用方針>

(仮称) 山北スマートICと主要地方道山北藤野線をつなぐ町道10号スマートインター線では、サクラ等の列植による修景を施し、緑のトンネルを形成するとともに、ウェルカムサインを設置することで、地域への導入空間として機能させる。あわせて、大野山、山北つぶらの公園等から広く眺望される造成のり面を植栽によって四季折々の変化が楽しめる眺望対象として修景する。

<導入施設イメージ>

- 修景植栽、ウェルカムサイン、ウェルカムゲート

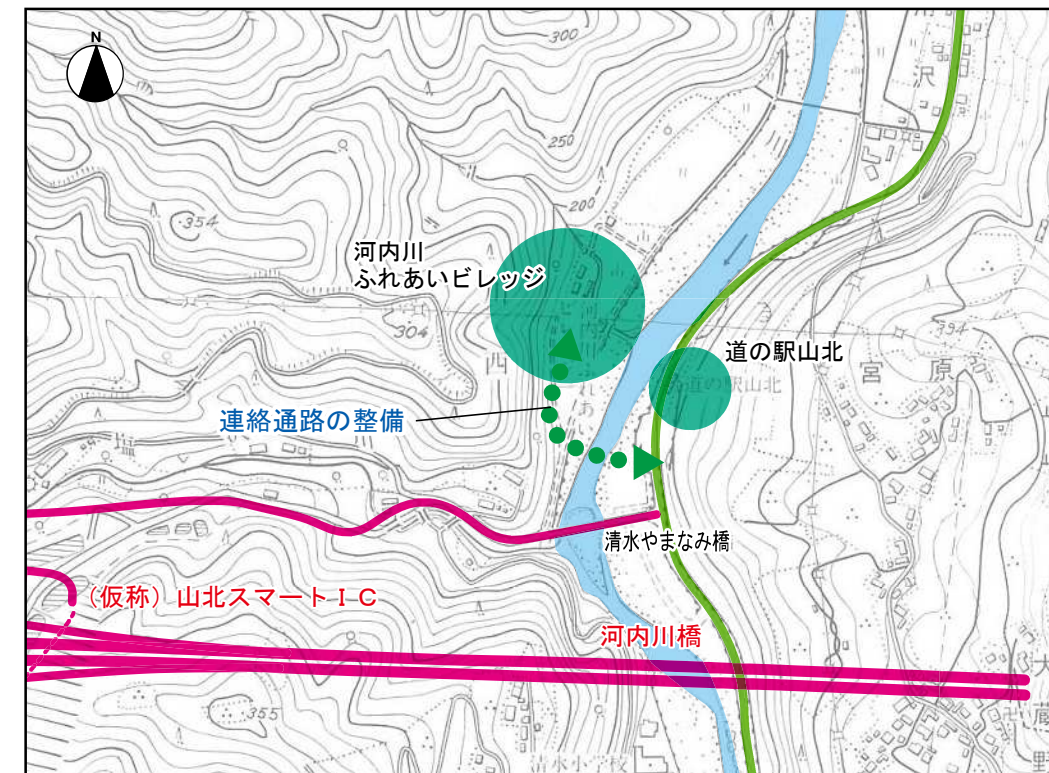


ゲート景観イメージ

サクラ等の列植やウェルカムサインを設置し、ゲート景観を整備する。

展開イメージ②

道の駅山北と河内川ふれあいビレッジの連絡通路の整備



【土地利用の考え方～連絡通路の整備による施設連携の強化】

<現況>

道の駅山北と河内川ふれあいビレッジは、河内川を挟んで対岸に位置しているが、2つの施設間は、清水やまなみ橋を介しての移動となる。両施設では、河内川の河川敷にアプローチできる形態となっている。

<土地利用方針>

施設間に連絡通路（飛び石等）を整備することで、道の駅山北と河内川ふれあいビレッジの連携を強化し、施設と空間の一体性を確保する。

<導入施設イメージ>

- 連絡通路の整備（飛び石等）、河川敷公園、広場

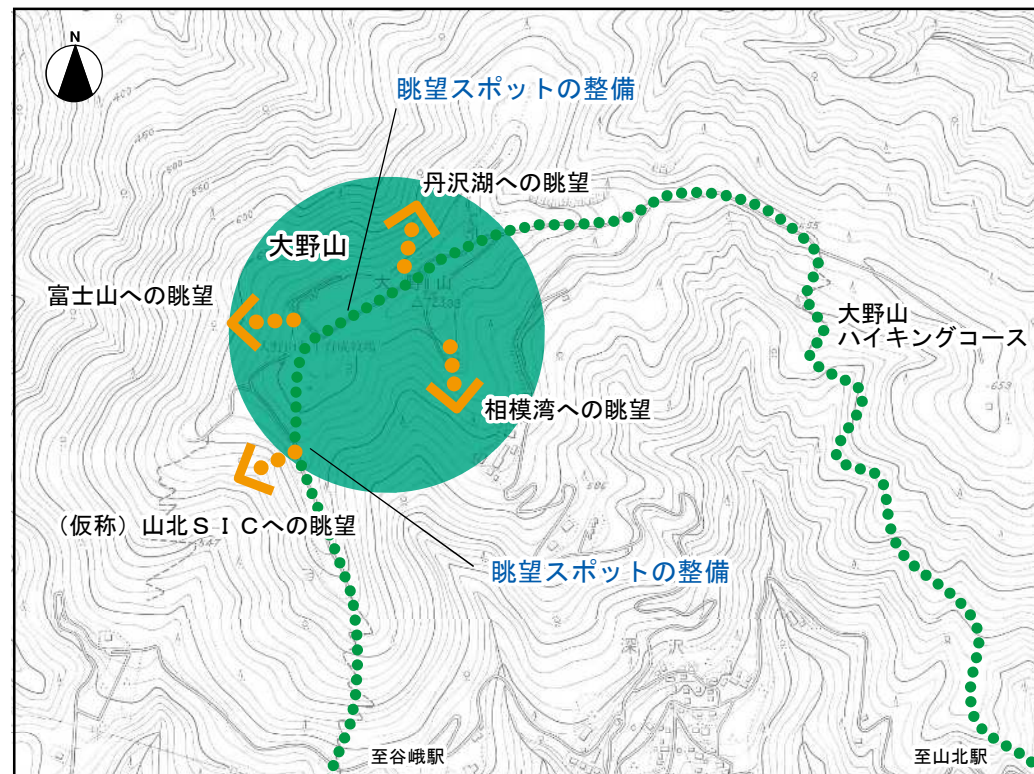


連絡通路整備イメージ

飛び石等を配置し、道の駅山北と河内川ふれあいビレッジの連携を強化する。

展開イメージ③

大野山からの眺望を活かした眺望スポットの整備



丹沢湖への眺望



(仮称) 山北スマートICへの眺望



大野山ハイキングコース

【土地利用の考え方～アクセス道路、造成のり面の修景】

＜現 況＞

大野山は標高 723mで、ハイキングコースも整備されている。富士山への眺望に優れており、丹沢湖、相模湾も眺望できるなど、山北町有数の観光拠点となっている。

＜土地利用方針＞

大野山ハイキングコースに案内誘導サインを設置し、富士山、相模湾、丹沢湖、(仮称) 山北スマートIC、河内川橋などへの眺望に関する情報を提供する。眺望ポイントとなる場所では休憩施設(あずまや、ベンチ等)や眺望に関する解説サインを設置するなど、大野山を拠点とした観光振興を図る。

＜導入施設イメージ＞

- ・案内誘導サイン、解説サイン
- ・眺望スポットとなる休憩施設(あずまや、ベンチ等)
- ・定点カメラ

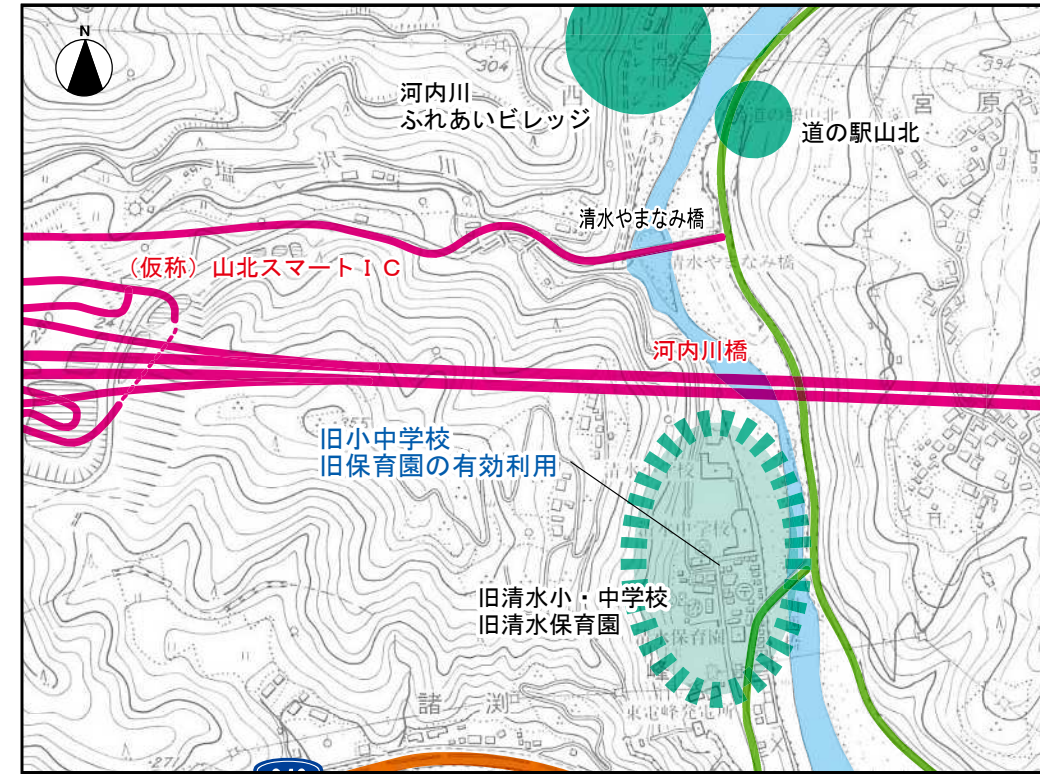


眺望スポット整備イメージ

富士山や(仮称) 山北スマートICへの眺望に優れた場所を眺望スポットとして整備する。

展開イメージ④

旧清水小・中学校、旧清水保育園の有効利用



旧清水小学校



旧清水中学校



旧清水保育園

【土地利用の考え方～旧清水小・中学校等の有効利用】

＜現 況＞

旧清水小・中学校、旧清水保育園は、廃校、閉園となった施設で、現在は、新東名高速道路建設に関連する施設利用がなされている。

＜土地利用方針＞

地域のコミュニティ・防災拠点として機能強化するとともに、道の駅山北や河内川ふれあいビレッジと連携し、自然学習や農業体験、ドローンなどの体験学習の場を設ける。また、サテライトオフィスや研修施設として利用転換を図ることで、体験学習の場とともに、水源地域と都市住民との交流拠点としての機能を付加する。

＜導入施設イメージ＞

- ・自然学習、農業体験など体験学習施設
- ・サテライトオフィス、研修施設
- ・災害支援物資備蓄施設

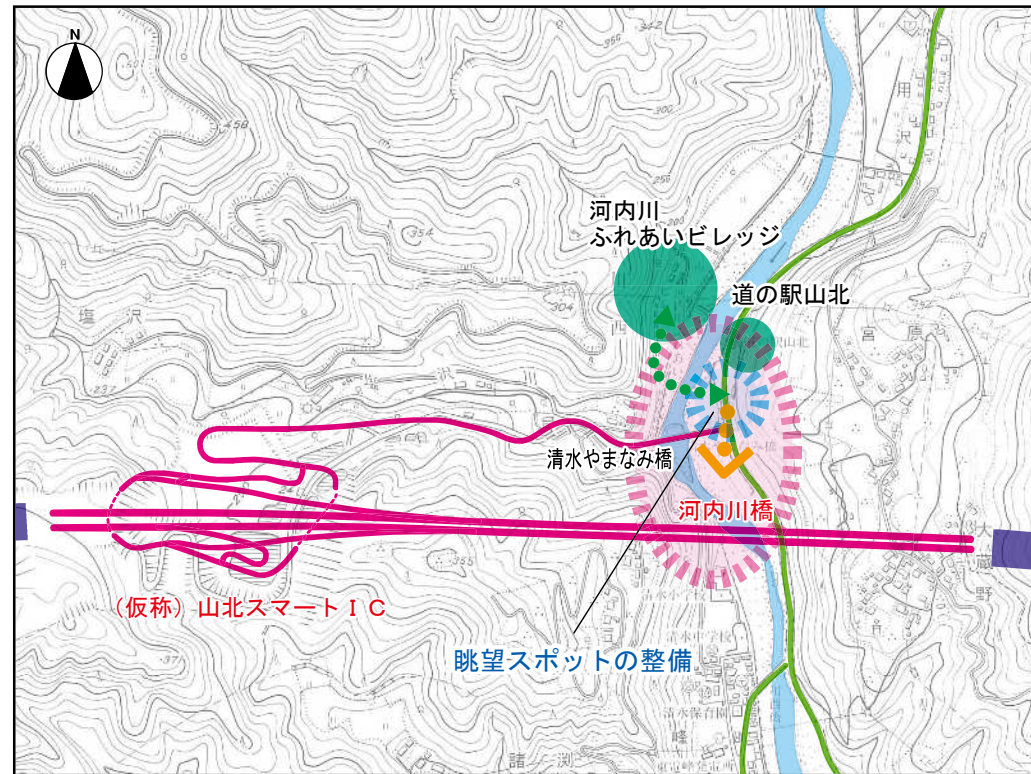


体験学習施設整備イメージ

自然学習や農業体験などの体験学習の場として整備する。

展開イメージ⑤

道の駅山北周辺での眺望スポットの整備



道の駅山北



道の駅山北



河内川への眺望

【土地利用の考え方～眺望スポットの整備】

＜現 況＞

駐車場、休憩施設、物販施設が配置された道の駅山北が設置されている。(仮称)山北スマートICの出入り口に位置し、丹沢湖方面への玄関口となる。駐車場には河内川の河川敷にアクセスできる階段が設置されている。対岸には河内川ふれあいビレッジ(キャンプ場)が位置する。

＜土地利用方針＞

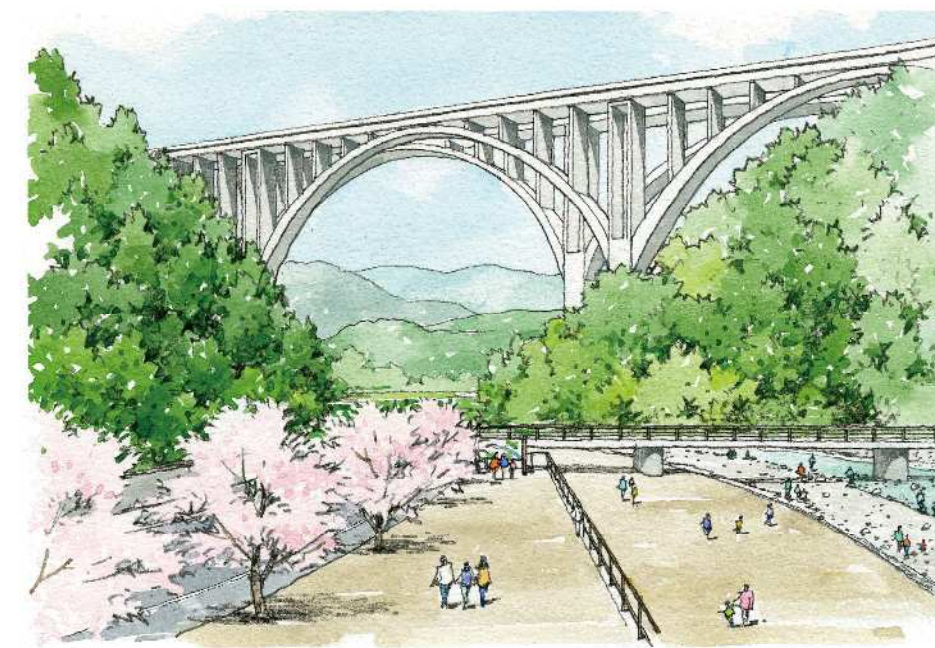
現在の道の駅山北を活用し、新東名高速道路「河内川橋」や河川景観への眺望を楽しめる「眺望スポット」を整備する。あわせて、河川敷へのスロープを活用し、河川環境と一体となった眺望スポット空間を形成する。また、道の駅山北の機能拡充を図るとともに、新たにウェルカムサインや観光案内サインを設置し、観光情報の発信を積極的に展開する。

＜導入施設イメージ＞

- ・眺望施設、休憩施設、周辺観光案内施設
- ・飲食、物販施設
- ・多目的広場、イベント広場、サクラ等修景植栽
- ・観光案内サイン、ウェルカムサイン



新東名高速道路 河内川橋整備イメージ
(NEXCO 中日本 中日本高速道路株式会社 提供)



道の駅山北眺望スポット
整備イメージ

新東名高速道路「河内川橋」や
河川景観の眺望を楽しめる空間
として整備する。

●(仮称)山北スマートIC土地利用構想の検討範囲はおよびその周辺地域は、森林法、農業振興地域、自然公園区域、土砂災害警戒区域等の法規によって、土地利用に制限が加えられていますが、本検討にあたっては、現行の法規制の要件にとらわれずに検討しています。